

調布市下水道総合計画事業実績一覧(案)

計画期間:平成23年度～令和2年度(10年間)

※計画策定後の詳細調査の結果、319箇所→278箇所に変更

基本方針	重点施策	目標	具体的な取組内容	管理指標	平成22年度末実績値	目標値	令和2年度までの実績	令和2年度の実績	令和2年度までの取組の振り返り	評価	下水道ビジョンページ
安全・安心のまちを支える下水道	管路施設の耐震対策	重要度に応じた下水道管路施設の耐震化	マンホール接続部(小口径管路)の可とう化	整備箇所数	6% (20箇所)	令和2年度 100% (319箇所)	令和2年度 100% (278箇所)※	耐震診断調査の実施 4.6km	・小口径管路の可とう化の実施数は、計画どおり278箇所全て完了した。 ・小口径管路の耐震化は、耐震診断により耐震性能を有することが確認できた管路を含め、約20kmが完了した。 ・中大口径管路の耐震化は、令和3年度からのストックマネジメント計画に基づく老朽化・劣化対策事業と合わせて実施していく。	◎	18
			長期的には中大口径管路の可とう化	着手目標年度	0%	令和元年度 事業着手	ストックマネジメントと一体的な実施に方向性変更	管路点検 2,541スパン		△	18
	台風等の大雨に対する浸水対策	効果的な浸透施設設置による浸水被害の軽減	調布市による雨水ますへの浸透管の設置	浸透管の設置数	0%	平成25年度 100% (2,573基)	平成25年度 100% (2,573基)	民間の宅地開発等における雨水浸透ますの設置 3,964基 浸透トレンチの設置 1,271m	・合流式下水道改善及び雨水流出抑制のため、市において雨水ますへの浸透管設置工事を行い、計画どおり完了した。 ・更なる雨水流出抑制のため、市内における公共施設及び各家庭の建物の新築・建替や民間の宅地開発等に当たり、雨水浸透施設の設置指導を推進した。 ・入間川上流域における浸水被害軽減のため、バイパス管設置工事等を実施した。 ・令和元年台風第19号の浸水被害を受け、浸水シミュレーションによる検証を行うとともに、水害への備えとして、水位計・カメラや可搬式排水ポンプ等を配備した。	◎	25
			他の事業や施策と連携した浸水対策(入間川分水路整備に伴う管路の移設工事)	移設工事の実施	0%	平成24年度 100% 完了	平成24年度 100% 完了	令和元年台風第19号の浸水被害を受けた取組 ・浸水シミュレーションによる検証 ・水位計、監視カメラ、流向計の設置 ・可搬式排水ポンプの配備		◎	23～26
豊かな自然環境を守る下水道	合流式下水道の改善対策	分流式下水道と同等以下の汚濁負荷量にするため放流水の基準値の達成 未処理下水道の放流回数の半減による公衆衛生上の安全確保	調布市による雨水ますへの浸透管の設置	浸透管の設置数	0%	平成25年度 100% (2,573基)	平成25年度 100% (2,573基)	民間の宅地開発等における雨水浸透ますの設置 3,964基 浸透トレンチの設置 1,271m	・合流式下水道改善及び雨水流出抑制のため、市において雨水ますへの浸透管設置工事を行い、計画どおり完了した。 ・更なる雨水流出抑制のため、市内における公共施設及び各家庭の建物の新築・建替や民間の宅地開発等に当たり、雨水浸透施設の設置指導を推進した。 ・水面制御装置等の清掃及び雨天時放流水の水質調査を継続し、改善状況のモニタリングを行った。	◎	27～28
			除去施設の設置による河川等に放流されるきょう雑物の削減	水面制御装置等の設置	設置数	50% (15箇所)	平成25年度 100% (30箇所)	平成25年度 100% (30箇所)		・雨天時水質調査の実施 ・水面制御装置等の清掃の実施	◎
	下水道資源の活用検討	下水污泥や下水処理水の有効活用の実施	下水道資源の利活用の検討	取組の検討	-	計画期間中に利活用を検討	計画期間中に利活用開始	清掃工場焼却灰や下水污泥焼却灰を活用したコンクリート製品の利用	・清掃工場焼却灰や下水污泥焼却灰を活用したコンクリート製品を工事で毎年利用した。	◎	29
持続可能で効率的な下水道	下水道施設の長寿命化対策(改築更新)	管路施設の予防保全的な管理	調査により対策が必要となった管路施設を改築・更新	改築・更新の延長	0%	令和2年度 100% (43.2km)	令和2年度 100%超 (68.8km)	・布田、調布ヶ丘地区の長寿命化対策工事の実施 ・ストックマネジメント計画の策定 ・管路点検2,541スパン	・人口が密集しており、布設からの年数が経過している布田・調布ヶ丘地区の管路(約68.8km)を対象に、平成27年度に長寿命化計画を策定し、管路の延命化を図る対策工事を実施した。 ・長寿命化計画から発展的に移行する形で、市域全体を対象とするストックマネジメント計画を令和2年度に策定した。 ・仙川汚水中継ポンプ場の予防保全については、災害時の機能不全リスクや長期的な事業費の縮減等のため、管路の新設による自然流下方式に切り替えることで、ポンプ場を廃止することを令和元年度に決定した。	◎	20～21
				改築・更新の実施	0%	平成30年度 対策完了 100%	管路の新設による自然流下方式へ方向性変更	・地質調査の実施 ・工事に向けた実施設計の実施		△	20～21
	効率的な下水道事業の経営	下水道台帳管理システムによる効率的な業務(事務)の実施	下水道台帳管理システムの高機能化、ネットワーク構成の拡張	着手目標年度	0%	総合計画期間中に着手	平成25年度に導入	-	・平成25年度から、下水道課窓口で下水道台帳システム(施設平面図)の閲覧を開始した。 ・平成30年度から、市ホームページで施設平面図のPDFデータの公開を開始した。	◎	35～36

評価

- ①"◎"計画どおり(計画以上)に目標を達成した。
- ②"○"おおむね計画どおりに目標を達成した。
- ③"△"目標達成までには至らなかった。